

HAND

Have A Nice Day!
in Yamanote Line

—アートと音楽を楽しむ15日間—

11月16日(月)～11月30日(月)

TOKYO MOVING
ROUND

東京感動線

東日本旅客鉄道株式会社

all illustrations /
Yutanpo Shirane

東京の街は、いつも感動で溢れかえっている。美しい景色を見て感傷にふけり、新しい音楽に心躍らせ、おいしいものを食べて感涙にむせぶ。山手線の駅から少し歩く。そこにはいつもあなただけの文化があります。

泣ける山手線。

BRUTUS
2020年11月15日号掲載

上野駅には自由がある。

文・ 岡本 仁

冬の寒い日に、外から暖房された部屋に入ると、例えば喫茶店に入ると、カミさんは即座に外套を脱ぐのだが、ぼくはしばらく着たままている。結婚をする前後の話である。カミさんによれば、暖かいところに入ったのだから、外套をすぐ脱がないと、汗をかいて風邪をひいてしまうらしいのだ。でもぼくは、ずうっと逆のことを教わってきた。つまり、建物の中に入っても、すぐには外套を脱がないこと。本当に暖かくて、このままだと汗をかきそうだと思うまでは着続けること。

このやりとりは、もちろん寒い時にだけ繰り返されていたのだが、いつの冬だったか、カミさんを上野駅に連れていくことにした。上野駅の構内にある喫茶店に二人で入ったのだ。カミさんは、いつものようにすぐに外套を脱ごうとするので、ちょっと待つように合図をした。カミさんはぼくのジェスチャーに従って、コートのうちばん上のボタンにかかっていた指を外し、椅子に座ってから店内を眺めた。そこに居合わせた客は、みな外套を着たまままでコーヒーを飲んでいたので、ぼ

くは得意満面で「これが北の教えだよ」と、カミさんに小さな声で囁いた。それからは、カミさんもすぐには外套を脱がなくなったはずだ。

山手線の駅で、どこがいちばん好きかを考えてみたが、やっぱり上野駅ということになるだろうか。ぼくは北海道の出身で、高校生の時の修学旅行ではじめて東京に出てきた。普通列車の床にゴザを敷いて寝るというハードな移動だった。そして東京駅から新幹線で京都に向かったのだ。団体旅行用に貸し切った車両は上野駅で停まったのか、それともそのまま山手線の線路に入って東京駅まで行ったのか、まるで憶えていないのだが、たぶん田舎の高校生を山手線に乗せることはしなかったのだと思う。ちなみにJRが日本国有鉄道だった時代の話である。

無事に東京の大学に入学を果たした。高校の同級生が上野で暮らしていたので、ときどき遊びにいっていた。その頃、ぼくは中野に住んでいたから、おそらく中央線で東京駅まで行って、山手線に乗り換えて上野を目指したはずであるが、動物

おかもと・ひとし／編集者。『ブルータス』『リラックス』『クウネル』など雑誌編集に携わった後ランドスケーププロダクツ入社。近著『ぼくの東京地図。』（京阪神エルマガジン社）など。Instagram：@manincafe

園や博物館などに行くことはなく、ひたすら友人のアパートに何人かで集まって麻雀をした記憶しかない。

中野に住み、地下鉄東西線で早稲田に通う。その帰りに高田馬場で降りて山手線に乗り、新宿に繰り出すことはほとんどしたことがなかった。中野からバスに乗って渋谷に行く。渋谷が憧れの街だったのだ。たまに高田馬場から渋谷まで山手線に乗ることもあったかもしれない。いずれにしても、東京に住みだしてから自分に関わりのある山手線の駅は、高田馬場、新宿、渋谷、そして東京、上野くらいであり、なかでも上野駅は北海道に帰省する時の出発駅でもあるから、自分の田舎に直結する場所として、他の駅とは違う親しみやすさがあったのだと思う。その後、中野から武蔵境、吉祥寺と、下宿を引っ越した後に、自分の生活線が中央線に変わってからも、上野駅の特別感が変わらなかった。

それから40年以上が過ぎているが、いまのぼくは渋谷駅と原宿駅の間あたりに住んでいる。そ

の前は恵比寿駅の近くに住んでいた。いずれにしても山手線との縁は切れていない。そして上野駅の特別感もいまだ変わっていない。ただし、理由は違っている。上野駅の中央改札の上には猪熊弦一郎による壁画「自由」があることを知ったからだ。「自由」が完成したのは1951年のことである。もちろん、ぼくがはじめて上野駅を使った時から、その壁画はいまと同じ位置にあったはずだ。ただ、そんなところを見る余裕なんて、まるでなかったし、そもそも猪熊弦一郎という画家を知ったのは、おそらく2000年代に入ってからのことである。有楽町駅から歩いて5分くらいのところにある東京會館で開催されていた、ある広告賞の審査委員を務めることになった時に、その建物の一階にある壁画に目を奪われた。近寄ってみると、「都市・窓」という壁画のタイトルと、作者の猪熊弦一郎の名前を書いたプレートがあった。すぐに調べてみたら、三越百貨店の包装紙「華ひらく」も彼の作品だったし、香川県の丸亀市には彼の名前を冠した「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館」があること

もわかった。そして、調べれば調べるほど、自分が好きなフランスやアメリカの画家やデザイナーたちとの交遊が浮かび上がってきて、こんなにすごい画家をまったく知らずにいままで過ごしてきたことが、なんだかとても恥ずかしいことのように思ったのだ。

以来、可能な限り丸亀市の美術館にも通ったし、残されている壁画などのパブリックアートも見に行くようになった。上野駅の「自由」もそのひとつだった。何度も使った中央改札を出て、振り返って少し上を見れば、いつでも確認できる壁画。なのに長いこと振り返りもせずに、乗り換えの地下鉄改札口に向かって歩いていく自分。初めてその壁画を見上げた時、こんなに素晴らしいものを持っているのに、いままで何も言わないままだったなんて、「上野駅のパカヤロー」とさえ、自分の不勉強を棚に上げて悔しがったのだった。

とはいえ、ならばぼくは、果たして自分がよく使う駅のことを何でも知っているだろうか。毎日のように使うとしても、そこは別の目的地へ向か



う山手線を待つ場所であって、それをまじまじと見つめるほどに、時間的にも気持ち的にも、余裕がある状態でそこに居ることはほとんどないはずである。にもかかわらず、そこにはふとした瞬間に目にしたことを感謝するような何かが用意されているのかもしれない。山手線には降りたこともない駅がたくさんある。それでいいのだろうか。山手線一周はだいたい一時間と聞いた。せめて一周してみてもいいのじゃないだろうか。どうだろう？ 1周したから何かがわかるということにはならないだろうが。

降りない。

文・平野紗季子

その日、3限の講義が休講になったことを知ったのは1限の直後だった。えー、ものすごく帰りた。一刻も早く帰りた。でも、帰れない。なぜなら4限に出席日数ギリギリの講義があるからだ。だる。追い詰められるまでサボり倒すがゆえにいざというときラッキーをつかみそこねる自分の性質を恨みつつ、どうやってこの数時間を潰そうか考えはじめる。大学3年生のある冬のことだった。

冬の大学は居心地が悪い。外のベンチでダラダラできないせいで学食や図書館は席の奪い合いが激化しているし、空いてる教室は空調が効いておらず底冷えは不可避。サークルに入っていれば部室でチルという理想的なキャンパスライフも謳歌できるだろうが、冷気性気味無所属の私は学外へ出るしかないのだった。ファミレスかスタバか。フラフラしていて思いつく。そうだ、品川のエキュートに行こう。

大学の最寄り駅は田町駅で、当時は山手線の隣駅が品川駅。その駅構内にエキュートがあった。楽

しいことがキュ〜と詰まっている駅、だからエキュート。笑。商業施設のキャッチコピーと受け取り手の実感の間にはそれなりの温度差が生まれてしまうのが常だとは思いますが、品川のエキュートに関して言えば、まさにその通り！ ナイスコピーだね！ と全肯定する私がいた。

品川のエキュートには、好きなイタリアン（カフェ・クラシカ）に、好きなパン屋（ブルーベリー・ラ・テール。〴〵あわせを呼ぶクリームパンが最高）に、好きな本屋（PAPER WALL。セレクトに個性あり）に、好きな雑貨店（D-BROS。デザインスタジオKIGIのオリジナルアイテムが揃う店。贈り物探しで何度お世話になっただろう。今はもうないのが残念）がラインナップしていた。駅ナカとは思えない充実のセレクトで私の好みと驚異的なシンクロ率を叩き出すエキュート。どなたか存じ上げないけれど、リーシング担当の方、いい仕事をどうもありがとう！ と何度思ったかわからない。

その日も私は迷わずカフェ・クラシカに入り

ひらの・さきこ／フードエッセイスト。小学校の頃から食日記をつけ続ける。『Hanako』の人気連載『私は散歩とごはんが好き（犬かよ）。』(マガジンハウス)が好評発売中。Instagram:@sakikohirano

バスタランチを食べた。一番安いランチセットでも1,500円はするが、メインのバスタはカルボナーラといえども卵の濃厚なローマ式だったりして、いちいち味にブライドが宿っている。さすが経営母体がミシュラン星の常連、アロマフレスカグループだけのことはある。駅ナカだからって甘く見てんじゃないよ。

いいバスタでお腹を満たして、D-BROSでレタースセットを買い、新刊を物色して、そろそろ田町に戻るかとまた山手線に乗るが、まだ4限まで1時間以上ある。うーん。どこで時間潰そうかと考え始めて（本日2度目）田町駅が目前に迫るなか、私は新しい選択肢を思いついた。

降りない。

このまま田町を通り過ぎてしまって、また1時間後に降りれば……私は田町駅に降りることが出来る。進んでいるはずなのに止まっていたような空白の1時間を、私は山手線の上で作り出してみることにした。

平日午後の山手線はがらんとしている。私はは

じの席にすずんで座り、頭を壁になっている部分に預けた。こういう時の収まりの良さにかけては随一の低身長だ。それにしても1周過ぐすと決めて乗ってみると、山手線はかなり落ち着く。まず座席のフカッと感。日本の電車で慣れていると当然と思ってしまうが、この喫茶店の椅子みたいな質感は素晴らしい。海外の硬いツルツルシートとは大違いだ。それから座席の下に仕込まれたヒーター。冷気性の足先を重点的に温めてくれるし、そこいらのカフェで入口付近に座るよりずっと温度が安定していてありがたい。そして絶妙な揺れ。これがタダでさえ血糖値スパイク気味の食後の眠気を後押しする。

結局1時間のほとんどはうつらうつらしていたと思う。その最中で、鉄腕アトムやエビスビールの発車音にハッとして楽しい気持ちになったり、東京駅の整然と立ち並ぶビル群から神田駅の雑々とした古き街並みに切り替わる時空のゆがみにときめいたり、鶯谷駅から見える看板たちの性なる訴えかけに目を奪われたり……と、目覚めるたび

に移り変わる東京の姿を高揚と不安、つまり取り返しのつかないほど遠くへ来てしまったような錯覚を覚えもしたが、大丈夫。山手線は環状線だから必ず出発地点に戻ってくる。と自分に言い聞かせた。

1時間後、たしかに電車は品川駅に再来し、品川〜田町間のぼんやりした空き地的なスペース（いまや高輪ゲートウェイ駅になったわけだが）を経て田町駅に到着した。時間をかけて同じ場所に戻ってきた。ただただぐるぐる繰り返した。その行動に妙に安心を感じる自分がいた。そのときふと、人生もそれでいいのかも、と思った。

時間を無駄にするな。前進しろ。目的意識をしっかりと建設的に行動しよう。当時、就活を控え、何者でもなく進路も定まらず、漠然とした焦燥感を抱えていた私は、日々が過ぎるたびに重なる数字に切迫感を覚えて、その中で自分も成長したり、立派にならなければならないのだと当然のように思っていた。でも、そんなものは幻想かもしれない。日々はたしかに不可逆ではあるけれど、そこ



に生きている者が時と共に自らを刷新していく必要などない。今年できなかったことが来年でもできなくていい。歳をとったぶんだけ成長していなくてもいい。ただ日が昇って沈むまでの時間の中で、素敵なものを見たり、ちょっと嬉しいことや悲しいことに出会ったり、エキュートに寄ったり、きれいな夕陽を喜んだりしながら心を使って過ごしていけばいいのだ。終点はなし。目的地がなくなると、ただ生きていればいい。ぐるぐると回り続ける山手線の中でそんなふう気づいたとき、好きにやるか、と吹っ切れた気がした。



TEARS on LOOPLINE 1

渋谷

1885年開業。狸や狐がかけずり回っていた渋谷村を現在の繁栄へ導ききっかけになったのが、品川線渋谷駅開業だった。思えばあの時代から、渋谷は常に新しい表情を見せてきた。唯一、ご主人を静かに待ち続けるハチ公像を除いて。

躍動しつつ進化を遂げる、元気な食の街。 —— 渡辺P紀子

実は渋谷には手を焼いている。茫洋として捉えどころがない。やたらとレンジが広く、しかも深い。ちょっと気弱になっていると、街が放つエネルギーに負けそうになる。だから、面白い。だから、目が離せない。だから、今日も足が向く。渋谷の食世界は魅力的だ。『ウルトラセブン』に出てくるマグマライザーで、ぐるぐると未来をこじ開けるように、「今」を表す新味が次々登場する。もちろん、昔ながらのいい店もちゃんと潜んでいるのだが、好奇心のアンテナにひっかかるのは今までなかったスタイルの店だ。

〈Konel〉 コーネルと読むが、「こねる」からとった名だ。それを象徴するように、初っ端はパン。これが旨くて

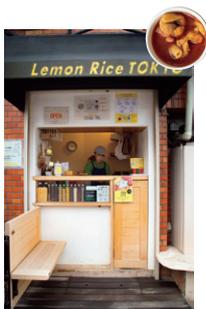
感涙。セーブするのに苦勞する。窓の外には山手線。手が届きそうだ。イタリアンといつつ、和テイストあり、チャイナ・ムードあり、おでんもバスタもある。どれもこれも、ワインもおいしくて、楽しくて、心地のいいサービ스에癒やされて、時間を忘れる。

〈Lemon Rice TOKYO〉 あのホテルディラン小宮山雄飛氏肝煎りの店。レモンライス一本。ピックアップに行くとき、こらえきれず、近くでパクつく。そうそう、これこれ。じわりと涙。カレーソースをかけたり、アチャールや大根のバジルピクルス、チリソースやバクチャーを混ぜ混ぜしたり、レモンを搾ったりして味変しながら「私だけの」レモンライスに育てる喜びよ。



Konel

渋谷区神南1-9-5 2F。予約はFacebookで。16時～23時。日曜・月曜休。16時～18時はパスタ、イタリアンおでん、蒸しパンバーガー。18時～はコースのみ6,000～7,000円。



Lemon Rice TOKYO

渋谷区桜丘町15-19 ☎080-9650-3210。11時30分～売り切れ終了。日曜・祝日休。レモンライス800円、大盛り+150円。サイトで通販も。

Cadeau nature

渋谷区渋谷2-21-1ヒカリエ Shin Qs 1F ☎03-6434-1567。11時～20時。無休。甜菜糖カステラとほうじ茶カステラ660円と煎茶550円。



〈Cadeau nature〉 「カドーナチュール」は、人に贈る、体においしい贈り物という意味と、自然からの贈り物という意味を重ね合わせた店名だ。ヒカリエにあるカフェでは、ナチュラルで健康的な食材だけで作るビスケットやカステラといったスイーツが、自然栽培のお茶やコーヒーと一緒にいた

だけの。からだごうひゃひゃと喜ぶ。息がつける。〈カドーナチュール〉のやさしさと心意気にほろり。

あ、気づけば今日もまた渋谷にまちやってくる。これだからこの街侮れない。

わたなべ・P・みちこ/コロナ禍までは、今日は山形、明日はノースと「おいしい」を求めて飛び回ってきたフードライター。愛称はPさん。



TEARS on LOOPLINE 2

新宿

1885年開業。1日の乗降客数のギネス記録を持っている日本最大のターミナル駅。最近、新南改札のSuicaベンギンに押されがちだが、新宿駅といえばやはりアルタ前のライオン像。そして東口のレトロな喫茶店にはピンク電話がよく似合う。



理解してもらえないけど、優しい街だった。—— 渋谷直角

恥ずかしい告白になるが、美術の専門学校に通っていたころ、新宿をウロウロしながら「脳内インタビュー」というのをよくやっていた。コレは、脳内の俺がインタビュアーで、俺がその

質問に答えるという激ヤバ行為である。しかも俺が『ロッキング・オン』ばりに熱い質問を次々と俺にぶつけてくる。「ロックとはどうあるべきか」「あなたのその考えはどこから来るのか」など、



新宿 らんぷる

地下に降りていくと、欧風な雰囲気のスペースが眼下に広がってるところがいちばん好き。初めて入った時と同じ感動を今でもしている。新宿区新宿3-31-3 1F・B1。

珈琲西武

昭和レトロ感もありながら、どこか新宿らしいキラキラさ、ゴージャスさも感じられて好き。仕事のことを考えたい時に来る。新宿区新宿3-34-9 メトロビル2・3F。



俺の生い立ちから思考までを、粘り強く聞き出そうとしてくるのだ。

さらにこの行為が深刻なのは、インタビューを受けている俺が、美術なりマンガなり音楽なり、「何かしらで少し成功している」設定の「俺」だったりするのだ。だから俺は少し偉そうに自分語りをしていて、インタビュアーの俺も、俺に尊敬の眼差しで質問するので、非常に気分の良い時間である。

取材場所はさまざま。歩きながらすることもあるし、喫茶店で腰を落ち着けての取材も多い。『らんぷる』の地下では重めのテーマで、『西武』ならプリンアラモードを食べながらポッ

ぽな話題で元気よく、『タイムズ』だったらたばこをふかしつつ社会に物申してみたり。日によって、インタビューのノリも変わるのだ。

これが、他人からするとだいぶヤバイ行為であると感じたのは数年後、飲み会で「脳内でやるじゃない？」と当然のように聞いてドン引きされてからだ。すさまじいナルシストか、サイコパスだと思われたらしい。でもこれは、成績も悪く実績も評価もなく、親にも「才能がない」と言われ続けていた学生にとって、絶望的な現実と向き合うためのメンタルコントロールだったのだと思う。「大丈夫だよ」と背中を押してくれる存在が脳内にしかないなかったのだ。新宿の人混みと古い喫茶店の景色が、ほかのどの街よりも自分を優しく包んでくれるように感じるのはそのせいだ。

幸運なことに20年経って、本当に取材してもらえるようになったけれど、つくづく思う。「あんなに取材受けたのに、全然うまくしゃべれねえ……」。



珈琲タイムズ

個人的に利用頻度が高い店。気軽に入れてサツと一杯飲んで出ていくのが似合う。最近では人気でなかなか入れない。新宿区新宿3-35-11。

しぶや・ちよっかく／マンガ家。webマガジン『フィナム』『週刊SPA!』などで新作マンガを連載中。https://www.shibuyachokkaku.com



TEARS on LOOPLINE 3

目白

1885年開業。目白駅はほぼ唯一の山手線の単独駅であり、地名に由来しない駅名を持ち、駅前広場に彫像がない数少ない駅でもある。黒川晃彦作「HOPE SPRINGS ETERNAL」は、学習院の脇を高田馬場方向へ1分ほど下った道沿いに立つ。



困難を乗り越えた、学び舎の街の100年建築。 —— 岡野 民

学習院大学をはじめ多くの学び舎が集まる文教地区、目白。その一角を成す日本女子大学の成瀬記念講堂は1906年創建。関東大震災で被害を受けながらも内部の造作は創建当時のまま

残され、幾度の補修や補強を経て今に至る。圧巻は屋根を支える天井の木骨トラス。その風格たるや。素晴らしい。目白の学校建築といえば、国の重要文化財でもある自由学園 明日館

を思い浮かべる人も多いだろう。設計は、20世紀を代表する建築家フランク・ロイド・ライトと、弟子の遠藤新。自由学園創立者である羽仁吉一も子夫妻の自宅があったここ目白に、1921年に竣工した。軒高を低く抑えた外観や幾何学的な装飾など、デザインはもちろん、心を打たれるのは、ライトの代表作が、これほどまで完璧な形で「使われ続けている」こと。一時は老朽化が著しく、解体がささやかれたというが、2001年には2年の歳月をかけた大掛かりな保存・修理工事が終了。現役存続は建築界の奇跡でもある。

遠藤新の遺作で1950年完成の日本

バプテストキリスト教目白ヶ丘教会もある。装飾を排した空間に温かさを添える照明のデザインには、ライトを継ぐ者としての遠藤らしさが見える。

時代を越え生き抜いてきた建物には、生き抜いたものだけが持つ迫力がある。人々が集い思いを寄せてきた場所には、思いや時間が積み重なってこそ生まれる「揺るぎなさ」がある。50年、100年、そしてその先も続いていく建築の時間軸は長く、その永さに触れることで私たちは今、前を向くことができる。

おかの・たみ／建築やデザイン、ものづくりの分野を中心に雑誌や書籍の編集と執筆活動を行う。雑誌での仕事に本誌「居住空間学」など。



日本女子大学 成瀬記念講堂
施工は清水満之助店（現・清水建設）。2021年の大学創立120周年を前に大規模な耐震補強工事も終了している。文京区目白台2-8-1。現在一般の見学不可。



自由学園 明日館

2階の食堂では喫茶も可。椅子や照明は貴重なオリジナルが今も使われている。豊島区西池袋2-31-3。見学期400円。月曜休。通常は10時～16時。変更もあるためHPで確認を。



日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会
アーチ状の梁が特徴の一つ。教会員が大切に維持してきた礼拝堂。新宿区下落合2-15-11。見学制限中。日曜礼拝はHPで確認を。





TEARS on LOOPLINE 4

日暮里

1905年開業。跨線橋が4本も渡っているのは乗換客が多い証し。日暮里の地名の由来は、新堀だった地名と日が暮れるまで見飽きない道灌山周辺の眺めとをかねて生まれたとか。駅前には太田道灌公の像。意外と谷根千がご近所である。

秋の日暮里で小説の世界を歩く。—— 鳥澤光

日が暮れる里。のどかに美しい日が並び、声に出せばポップに跳ねる日暮里に日本鉄道の駅が開業したのは1905(明治38)年4月のこと。同年1月、夏目漱石は初の小説『吾輩は猫である』を『ホトトギス』に発表し、好評を得て翌夏まで連載を続け、デビュー長編を完成させる。『猫』の中で元・書生の多々良君が猫の飼いたたる主人を誘って食べにいくのが、「芋坂の団子」こと〈羽二重団子〉である。泉鏡花、田山花袋、正岡子規の作品にも書かれた名物は、日暮里の駅ナカや駅前でも購入できるが、3分ほど歩いた本店で焼きたてを頬張る、が正解。腹ごしらえがすんだら(三崎坂)へ。ルートはいろいろあるが、獅子文六に色川

武大、佐佐木信綱や円地文子も眠る谷中霊園を抜けるのがおすすめだ。

三崎坂は千駄木駅前の交差点を挟んで団子坂に名を変える。名探偵・明智小五郎が初めて世に姿を現す『D坂の殺人事件』のあの坂だ。江戸川乱歩が営んだ坂上の古書店・三人書房はすでにないが、三崎坂には乱歩&猫ファン御用達の喫茶店〈乱歩°〉がある。ちなみにこの坂には首振坂という別名もあるそうで、首のあたりがスースーしてくる不気味さがなんとも魅惑的だ。

団子坂を上ると、やがて〈文京区立森鷗外記念館〉が見えてくる。『團子坂』に始まり『青年』『半日』『金毘羅』など、界隈を舞台にした小説を多く残した鷗外が〈観潮楼〉と呼んで愛

根ぎし芋坂 羽二重団子 本店

1819(文政2)年、藤の木茶屋として創業。名物の羽二重団子は焼団子(生醤油)と餡団子(こしあん)の2種。煎茶セット560円。荒川区東日暮里5-54-3。



三崎坂&団子坂とへび道

漱石『三四郎』で団子坂の菊人形を見物した三四郎と美禰子は川沿いに行く。三崎坂から南へ延びるへび道は藍染川の表情を今に伝え、暗渠好きに愛される小径。

文京区立森鷗外記念館

11月29日まで『森家の歳時記—鷗外と子どもたちが綴った時々の暮らし』開催中。図書館やカフェを備える。文京区千駄木1-23-4。

し、半生を過ごした旧居跡。陶器二三雄設計の文学館に、作家の遺品や資料が収蔵、展示されている。ちなみに坂を逸れ600mほど南西に下ると、かつて鷗外が、その後漱石が住んで『猫』や『坊つちゃん』『草枕』などを執筆した〈猫の家〉の跡地があり、碑には川端康成の題字が彫り込まれている。

北へ上れば田端文士村、隣駅・鶯谷へ向かえば子規の庵が残り、『青踏』創刊の地に、根津権現にS坂に、作家の旧居跡も数知れず。日暮里に文学散歩のネタは尽きまじ!

とりさわ・ひかり/ライター。雑誌を中心に作家インタビューや本の紹介などを手がける。根津に住んで10年、来春日暮里に引っ越します。



TEARS on LOOPLINE 5

御徒町

1925年開業。アメ横やABAB、多慶屋など個性的な商業エリアで知られる街。また宝石の名がついた通りが多いのは、宝飾問屋街であるため。愛嬌あるパンダ像は2012年、南口にオープンした〈おかちまちパンダ広場〉に鎮座している。



巨匠・小津安二郎が惚れ込んだグルメの聖地。—— 鍵和田啓介

「雨の降る日の蓼科は／うすら寒さの身にしみて／足をまるめて昼寝すりや／とんとんかつ食ひたいな／蓬莱屋がなつかしや」

昭和29年、『東京物語』で知られる映画監督の小津安二郎は、脚本家の野田高梧の別荘を訪れた際にこんな戯れ歌を残している。ほんのひとつぎの旅行中であっても、“東京のとんかつの味”を懐かしんでしまうあたり、いかにも小津らしい。実際、彼は大のとんかつ好きであり、彼の監督作で登場人物たちがしばしばとんかつを食べていることからそれは伝わってくる。

とりわけ小津が愛したとんかつ屋が、歌の中でも詠まれている〈蓬莱屋〉だ。御徒町駅の程近くに佇む、大正元年創

業の老舗である。彼の日記によれば、国立西洋美術館で芸術鑑賞をしてからこの店で昼食をとるのが、休日の定番コースだったらしい。亡くなる直前、病院にまでこのとんかつを運ばせたというから、その惚れ込みようは推して知るべしだろう。

この御徒町駅周辺は東京におけるとんかつの聖地として知られ、〈蓬莱屋〉、今はなき〈双葉〉と並び“とんかつ御三家”に数えられるのが、明治38年創業の〈ぼん多本家〉だ。先の日記によると、小津はここにも足を運んでいたようだ。とんかつ信者の小津にとって、御徒町を訪れることはまさに聖地巡礼だったのかもしれない。とはいえ〈ぼん多本家〉はとんかつ屋ではなく洋食

蓬莱屋

2階の小津の指定席は今も残る。ヒレカツ定食3,300円。台東区上野3-28-5 ☎03-3831-5783。11時30分～14時（土・日・祝～14時30分）、17時～20時。水曜休。



ぼん多本家

宮内省（現・宮内庁）大膳寮に仕えた島田信二郎が開業した洋食店。カツレット2,700円。台東区上野3-23-3 ☎03-3831-2351。11時～14時、16時30分～20時。月曜休。



うさぎや

小津が愛した「喜作最中」以外にも、職人たちが丹精を込めて炊き上げる餡が“核”となる和菓子が多数揃う。「喜作最中」は1個120円。台東区上野1-10-10 ☎03-3831-6195。9時～18時。水曜休。

店で、看板メニューは“カツレット”と呼ばれているのだが。

さて、とんかつを食べた後、小津はよく土産として和菓子を買って帰ったそう。大正2年創業〈うさぎや〉の「喜作最中」はその一つ。派手さはないが、噛むほどに奥ゆかしい甘さが広がるその味わいは、彼の作品を思わせ

ないでもない。小津が亡くなって既に60年近くになるが、彼の愛したこれらの店は今も残っている。その味を追体験してから小津作品を観れば、より深い感動が待っているに違いない。

かざわだ・けいすけ/1988年東京都生まれ。ライター。主に映画にまつわる記事を雑誌や書籍に寄稿。著書に『みんなの映画100選』。



Kanda

TEARS on LOOPLINE 6

神田

1919年開業。高架線路下に造られた駅には駅舎的なモノがなく、また駅前広場もない。「健やかに」と題された田中昭作の彫像も東口ガード下だ。しかし当時は、赤煉瓦と白い花崗石の高架橋こそがモニュメントだったのかも知れない。



立ち飲み大松

イワシ料理専門〈大松〉の立ち飲み。一番人気はなめろう。17時～23時LO。日曜・祝日休。千代田区鍛冶町2-12-13 ☎03-5295-5470。



尾張家

2階にはお座敷も。夜は予約がオススメ。11時30分～13時、17時～22時LO。土曜・日曜・祝日休。千代田区鍛冶町1-6-4 ☎03-3251-4320。



下町の持ち味は、酒場が知っている。—— 大池明日香

神田には、粋な酒場が多くある。粋というのは、旨いだけも安いだけでも全然ダメで、色や音や匂いや、あらゆる要素が複雑に融合した、ちょっとした奇跡だ。それは、気の利く店主が美しき酒飲みたちを呼び寄せて生まれる。

その一つ、ガード下の〈立ち飲み大松〉に入れた日は幸運だ。寡黙に料理と向き合う大将を、仕切りのスタッフが支え、ガチャガチャしがちな駅前にあってさっぱりと、静かな秩序が保たれている。富山県氷見から直送のイワシを使った料理は、刺し身もなめろうも南蛮漬けも、嘘みたいに全部おいしい。特に好きなのが、イワシの唐揚げにネギを山盛りのせた「ねぎいわし」。揚げたてにレモンを搾るのを想像するだけでたまらなくなる。しかも、どの一品も400円ほど。帰りは自分で皿やグラスを下げてテーブルを拭く。そういった酒場のルールを、居合わせた客同士がなにげなく教え合う姿もいい。

1927年創業の〈尾張家〉の売りは、もちろんおでん（刺し身も！）であるのだが、それと共に最高なのは、神田

名物と言っていいカウンター劇場だろう。おでん鍋を守る女将さんと息子さんたちの気さくな人柄、どんな客にも平等にパキパキとした下町らしいおしゃべりで接してくれるのが何よりのご馳走だ。長年、注ぎ足してきただしがしみしみのおでんは、こうしたコミュニケーションを通しての柔軟さがあるからこそ、歴史を今に継ぐのだと思う。

雑多な飲み屋街の裏路地にある〈MIKKELLER KANDA〉では、木造の民家を生かして改築した空間でクラフトビールを楽しむ。キャッシュオンで、おいしいのを気軽に一杯。世界のMIKKELLERで唯一ここにしかないスマッシュバーガーは素材も安心でフワフワ軽くてちょうどいい。無休で飲めるのも素晴らしい。ここもまた神田なのだ。

神田の夜は長いし、粋な酒場はまだまだある。下町だから長つ尻はしない。その代わりに、空が白むまで何度でも“泣きの一杯”を求めて彷徨うのだ。

おおち・あすか／神田育ち、神田在住。いろいろの、編集・執筆・展示など。タナカカツキ著『新・水車水槽のせかい』改訂おまたせです！



MIKKELLER KANDA

2・3階がタップ12種を常備するビアバーで、1階はビールも飲めるバーガーショップ。1階11時30分～22時LO、2・3階16時～23時LO。無休。千代田区内神田3-21-2 ☎03-5244-4903。





TEARS on LOOPLINE 7

東京

1914年開業。現在の駅舎は辰野金吾設計による開業当時の雄姿を復元したもの。駅舎の復元に伴い整備された丸の内駅前広場には、永久の平和を希求する「アガベの像」が再設置されている。再整備が進む東京駅はまさに首都の顔になった。



コトククラブ 東京丸の内
海外アーティストの渡航が難しくなったため、現在は日本人アーティストのライブが中心。千代田区丸の内2-7-3 東京ビルTOKIA
2F ☎03-3215-1555。



丸の内ハウス

9つのレストランやバーが軒を連ねる新丸ビルの人気フロア。平日は11時から翌朝4時まで営業。千代田区丸の内1-5 新丸ビルF。



京橋 恵み屋

すべて十割そばのみりで「恵みそば」「韃靼そば」「田舎そば」「更料そば」の4種。並盛り350g 500円。11時～15時（売り切れまで、土12時～）、18時30分～23時（土～22時）。日曜・祝日休。中央区京橋3-4-3。

高層ビルの街並みに、生きた音楽が降る。—— 渡辺克己

ビジネスの中心で、東京の玄関口でもある東京駅。飲食は多いけど、音楽が楽しめるお店は少ない印象だった。

しかし現在は、新丸ビル7階に複合飲食フロア 〈丸の内ハウス〉 がある。中央エレベーター横にDJブースが設置され、木曜・金曜には東京で活動する腕利きのDJたちがプレーしている。ブッキングは、90年代から世界と東京をつなぎ、数々のパーティをオーガナイズしてきた^{うすけ}白杵杏希子。それだけに、生きた音楽がフロアを彩る。今夏からは東京駅周辺を一望できる屋外テラスで、ライブイベント『MAGIC HOUR LIVE』もスタート。夕焼けで真っ赤に染まるビル群をバックに、街の喧騒や風の音と混ざり合うアコースティックギターの演奏。音楽が降ってくるような光景に、思わず心が震えた。10月からは『MOON LIGHT MUSIC』に名前を改め、毎週金曜と11月30日の満月の日に開催予定だ。

新丸ビルから徒歩5分、良質なライブが楽しめる 〈コトククラブ〉 がある。現在コロナ対策で食事は提供して

いないが、お酒とスナックを楽しみながら、生演奏が聴けるリラックスした空間だ。数々のステージを拝聴したが、中でも西海岸のジャズ～ソウルの旗手、ムーンチャイルドの2017年公演が印象深い。ゆったり楽しめるコトククラブのステージでは、彼らの楽曲のチルアウトな側面が堪能できた。そんなことから心が和み、お酒も進んだ。

また、東京駅周辺に勤める音楽好きのサラリーマンに愛されている店も。立ち食い蕎麦の 〈恵み屋〉 の入口からは、蕎麦のいい香りとともに、ツェッペリンやクリームなどのクラシックロックが流れてくる。壁にはギター、テーブルの足元にはギターアンプ！ ご主人の趣味全開だけど愛嬌満点。思わず楽しい気持ちにさせてくれる。夜はお酒も飲めて、ロック談議で盛り上がる常連も多い。ライブから日常的に訪れる店まで。今の東京駅周辺には、素晴らしい音楽が溢れている。

わたなべ・かつみ/ライター。映画音楽のみでDJするサントラ・ブラザーズのメンバー。週末はLittle Nap RECORDSHOP中古部の店番も。



TEARS on LOOPLINE 8

新橋

1872年開業。鉄道唱歌が「汽笛一声新橋を～」で始まるように、新橋駅は日本最初の鉄道の始発駅であり山手線が環状になる約半世紀も前から存在する。東口には「鉄道唱歌の碑」があり、西口SL広場には彫刻家・瀬戸田治作の「愛の像」が。



今も昭和が匂う街、ここは“新橋パラダイス”。—— 村岡俊也

新橋駅前には、終戦からわずか数日で闇市が立ったという。その闇市を整理する形で木造マーケットが建てられ、新橋駅前には盛り場となっていった。

1964年の東京オリンピックの前後で行われた都市改造計画の一端として、新橋駅前では、東京都で最初の再開発が行われた。東口に新橋駅前ビル、西口にニュー新橋ビル。この2つのビルの区分は、マーケットの権利者を中心に分譲され、今なお戦後から地続きの、まったく異なる業種が肩を並べている。雑多な空気は、今も保たれたまま。

訪れた客には、その混沌とした様子が、まるで群像劇のように映るはずだ。私は『新橋パラダイス』と名づけて、その姿の一端を本に記した。

例えば、駅前ビルにある〈明天堂〉。マーケット時代の地区にも名前の記された文具店を、父から継いだ兄弟が営んでいる。一角では、かつて並びにあった、雇用契約書や作業日報などの

明天堂

往年の文具店はさすがのラインナップで客を迎える。「請求書」スタンプなどオフィス文具も健在。港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館1F。



「書式」を売る店の棚を引き受けている。文具店の中で、時代に取り残されたもう一つの店が、ひっそり息をしている。

SL広場から入ってすぐにあるニュー新橋ビルの〈ベジタリアン〉は、青果市場の仲卸の小売り部門として始まったジューススタンドだ。50年もの間、店先で果物の熟れ具合を確認め、カラフルなユニフォームでサラリーマンたちを迎え続ける、お姉さんたちの日々を思う。周年記念として特別価格200円で並ぶミックスジュースに、新橋の優しさを感じてしまう。

そのままエスカレーターを上った

ベジタリアン

「ジューススタンド」という業態が珍しかった時代から続く老舗。季節の果物を中心に、野菜との組み合わせなど、体調に合わせてジュースを選べる。港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル1F。



2階には、戦後の引き揚げ者を無料で散髪することから始まった〈ニュー新橋パーバー〉がある。かつて繁忙期には休憩を取ることができず、生卵をかつみながら働いていたという職人たちが、今でも頭を刈っている。

“時代”が詰まった2つのビルにも、再び、再開発の計画が持ち上がっている。だが、ビルを慈しむ時間はまだ数年は残されている。名物ビルの店々の細部には、長い年月によって醸された情緒が宿っている。

むらおか・としや/ライター。数年来の取材をまとめた『新橋パラダイス 駅前名物ビル残日録』（文藝春秋）を今年9月に出版したばかり。



ニュー新橋パーバー
新橋駅構内で戦後すぐに始まった〈新橋ステーションパーバー〉がビル内に移転している。港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル2F。



shop photos / @ungesstunju

HANDで、 どんな感動と出えるの？

山手線30駅×OVER ALLs

11.16 (MON) - 11.30 (MON)

山手線30駅のポスターパネルをOVER ALLsがジャック！ いつどこにどんなアートが現れるかはお楽しみ。見つけたら「#東京感動線HAND」をつけてSNSに投稿しよう。

有楽町駅

「THE STAND ガード下のDJ」

- 11.20 (FRI) / 11.27 (FRI)
- 場所・エキュートエディション有楽町 (THE STAND)

有楽町駅ガード下 (THE STAND) で「アナログレコード」によって奏でられるスペシャルな2夜。

「ガード下 JAZZ」

- 11.20 (FRI) 18:00 - 23:00
- DJ 箭内健一
- * スペシャルゲストDJ「松浦俊夫」「原田潤一」

「ガード下 バレアリック」

- 11.27 (FRI) 18:00 - 23:00
- DJ 箭内健一
- * スペシャルゲストDJ「橋本徹 (カフェ・アプレミティ)」 「haraguchic」

高輪ゲートウェイ駅

OVER ALLs×はからめカルテット (東京都交響楽団有志) コラボLIVE

- 11.16 (MON) 14:00 - 14:30
 - 場所・改札内鉄道テラスビジョン
- カルテットの演奏に合わせて、OVER ALLsがライブペインティングを実施。イベントのオープニングにふさわしいアート×音楽のコラボレーションライブを高輪GWで。

はからめカルテット (東京都交響楽団有志) LIVE

- 11.20 (FRI) 13:00 - 13:30 / 14:00 - 14:30
- 場所・改札内鉄道テラスビジョン

恵比寿駅

Sustainable Art Station Ebisu

- 11.11 (WED) - 11.20 (FRI)
 - 場所・駅西口改札内
- 恵比寿駅×パンタンデザイン研究所による廃材を活用したアートワーク展示。

原宿駅

VR原宿駅

- 11.16 (MON) - 11.30 (MON)
 - 場所・オンライン * 詳細はイベントHP
- 原宿新旧駅舎のVR体験。

山手線全駅で、11月16日(月)から11月30日(月)まで行われる様々なイベント、「Have A Nice Day! in Yamanote Line」。いつも通勤・通学で通り過ぎている、あの駅に途中下車。そこには、いままで知らなかった山手線の魅力があります。

Bridge GOOD COFFEE & GOOD MUSIC

- 11.22 (SUN) 21:00 - 23:00

■ 場所・猿田彦珈琲 The Bridge 原宿駅店

エンライトメントと田中知之 (FPM) による1夜限りのDJ/VJイベント。音楽と映像、そしてコーヒー。カフェで過ごす日常とは違う特別なひとときを、原宿駅上で。



高田馬場駅

STATION EDEN with BOOK AND BED TOKYO

- 11.16 (MON) - 11.30 (MON) *一部12.25(FRI)まで
- 場所・早稲田口改札外+STAND by bookandbedtokyo edenworksによる参加型インスタレーションのほか、店内でもアート作品の展示・販売などイベント多数。

西日暮里駅

ニリフェス

- 11.28 (SAT) 10:00 - 15:30
 - 場所・エキラポniri、西日暮里エキマド など
- 駅構内でワークショップ「もうすぐ50歳! 西日暮里を花かざぐるまで飾ろう!」や駅員とのポッチャ大会など、様々な企画を実施。

ここでは紹介しきれなかったイベントも。全イベントの詳細は、

東京感動線 で検索 🔍

<https://www.jreast.co.jp/tokyomovinground/>

日暮里駅

art×craft×local

- 11.19 (THU) - 11.26 (THU)
 - 場所・駅改札内コンコース
- 地域でアートギャラリーを運営するHOW HOUSEセレクトの鉄道やアートを感じられる期間限定ショップ。

秋葉原駅

駅ピアノ

- 11.21 (SAT) - 11.29 (SUN)
 - 場所・駅改札内1階コンコース
- 駅構内で誰もが音楽を奏でられる駅ピアノ。駅という身近な場所から鳴り響く音楽との出会いを楽しもう。

東京駅

ヘラルポニーアート展示

- 11.16 (MON) -
 - 場所・八重洲
- グランルーフ地下1階
- 「異彩を、放て。」をミッションに活動するヘラルポニーによる、知的障害のあるアーティストが放つ個性豊かな作品の展示。



写真は高輪ゲートウェイで展示した時の様子。

「#東京感動線HAND」をつけて投稿すると、東京ステーションホテルのペア宿泊券などが当たるSNSキャンペーンも。

OVER ALLsライブペインティング

- 11.30 (MON) * 詳細はイベントHP
 - 場所・グランスタ東京スクエアゼロ
- OVER ALLsによる山手線1周ライブペインティングプロジェクト「ART LOOP TOKYO」フィナーレ。山手線30駅に描かれたアートが、東京駅に集結! そこにはどんな仕掛けが隠されているのか。ワクワクの止まらないライブイベントが楽しめる。



東京エキマチライブ

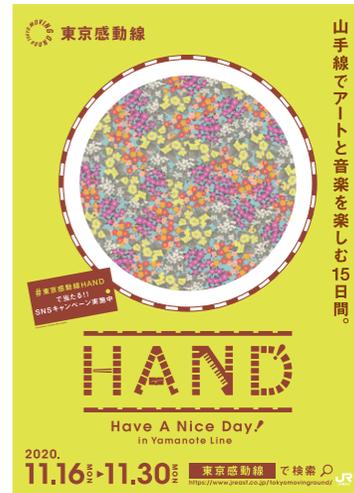
- 11.25 (WED) 18:30 - 20:00
 - 場所・八重洲グランルーフ2階
- 東京駅が醸し出す大人な雰囲気のインストゥルメンタルライブを開催。

VINYL×東京感動線アート展示

- 11.16 (MON) - 11.30 (MON)
 - 場所・グランスタ東京内VINYL
- ロブ・キドニーやさくらいはじめなどのアーティストが山手線にまつわる人やまちからインスピレーションを受けた作品をここで展示・販売。

TOKYO STATION AR ART PROJECT

- 11.16 (MON) - 11.30 (MON)
 - 場所・丸の内駅前広場
- 東京駅とそこから広がる東日本エリアをARアートでつなぐプロジェクト。スマートフォンを東京駅丸の内駅舎にかざして見える世界をシェアしよう。



山手線でアートと音楽を楽しむ15日間。